

氏名	浅川 希洋志 (あさかわ きよし) 教授
こんな研究をしています	<ol style="list-style-type: none"> 最適経験 (optimal experience) といわれるフロー経験 (flow experience) と精神的健康・psychological well-being の関係について。 異なる文化で育った人々はフローを同じように経験するのだろうか。 生理学的指標でフロー経験をどう測定するか、できるのか。
こんな成果を挙げています	<ol style="list-style-type: none"> “Flow experience, culture, and well-being: How do autotelic Japanese college students feel, behave, and think in their daily lives?” (<i>Journal of Happiness Studies</i>, 11, 2010). 「楽しさと最適経験の現象学—フロー理論—」鹿毛雅治編『モチベーションをまなぶ12の理論』金剛出版 (2012年)。 “Universal and cultural dimensions of optimal experiences.” (共著: with M. Csikszentmihalyi) (<i>Japanese Psychological Research</i>, 58, 2016). (監訳) チクセントミハイ『クリエイティヴィティー—フロー体験と創造性の心理学』世界思想社 (2016年)。 「心理学者ミハイ・チクセントミハイが残したもの」『心と社会』第53巻第2号, 日本精神衛生会 (2022年)。 “Dispositional flow and related psychological measures associated with heart rate diurnal rhythm” (共著) (<i>Advanced Biomedical Engineering</i>, 12, 2023). かごしま移住ネット: ワークेशन実証実験結果 (鹿児島県からの依頼: 共同研究 (https://www.kagoshima-iju.jp/workation/tourreport1/experiment-report/?fbclid=IwAR1KFvo3nI0xYc0RDQV7krnUKDokpbtzUnzHU6fT_yLjLMSdy-BvpIvXnU) (2023年)。 Factors associated with flow in fulfilling and enjoyable situations in Japanese undergraduates, <i>the 11th European Conference on Positive Psychology in Austria</i>, 口頭発表 (共同研究)、(2024).
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	文化と心の働きに関する研究: 異なる文化で育った人々は、同じ場面で同じような心の働き方や経験をするだろうか。学校教育は文化の担い手としての子どもたちにどのようなことを期待し、教育プロセスの中で、子どもたちはどのような心の働き方を身につけていくのか。
こんな授業を行なっています	「異文化社会論 IIA/B」: 文化心理学の立場から心の働きと文化の関連について学ぶとともに、異文化社会/多文化社会における適応とはどういうことかを考えていきます。また、受講者が自分自身の異文化体験に対する考察を深めていくための一助となるような授業になればと考えています。
学会や社会でこんな活動をしています	所属学会: 日本心理学会、American Psychological Association、International Positive Psychology Association、European Network for Positive Psychology。 小・中学校の教育研究のサポート、企業内メンタルヘルス・モニタリング・システムの構築、フロー理論を用いた起業家教育プログラムの検証、「ワークेशन」の効果と可能性の検証、フロー経験と心拍数との間にどのような関係があるのかを明らかにする取り組み、国立障害者リハビリテーション研究所の研究者の皆さんと人間のウェルビーイングとは何か、障害者支援システムにおける使用者の主観的経験、そのシステムを使うことによるその人のウェルビーイングの意味が人生でどのように変化していくのかなど、様々な活動、研究に携わっています。